

仙台市一般廃棄物処理基本計画 中間評価（案） 概要

計画の構成に沿って、第2章の『3 計画の基本目標』『6 実施・検討すべき施策』『7 処理施設の整備計画』『8 処理体制』を対象として、評価対象項目を【総括表】（中間評価（案）8ページ）のとおり12項目に区分し、それぞれの項目について、【中間評価シート】（同9ページ以降）を用いて、関連する指標や課題等の評価・分析等を行った。

総合評価：

- ◎ 取り組みが順調に進んでいる
- 取り組みが概ね順調に進んでいる
- △ 取り組みに遅れが生じており、更なる取り組みの推進が必要である

1. 当初計画の基本目標 【シート番号1 総合評価：△】

震災以降の人口増加や経済活動の活発化等、当初計画において想定し得なかった社会経済状況の変化によってごみ量が増加しており、目標達成は困難となっている。

また、ごみ総量削減という指標は人口増加や経済活動の活発化等の社会経済状況の変化を想定していないものであった。

2. 資源循環都市づくり

① 生活ごみの減量・リサイクル推進

ア 生活ごみの減量・リサイクルの推進 <生ごみ> 【シート番号2 総合評価：○】

生ごみの水切りや調理時の工夫について市民の取り組みが進んでいる状況が見られる。引き続き取り組みを進めていくほか、各家庭における生ごみのたい肥化の取り組みについて、更なる働きかけを行っていく必要がある。

イ 生活ごみの減量・リサイクルの推進<紙類> 【シート番号3 総合評価：○】

紙類の回収量については、目標の達成に向けて比較的順調に推移しているが、「40歳未満」「居住3年未満」への更なる周知広報等、一層の分別促進に向けた働きかけを行っていく必要がある。

ウ その他の生活ごみの減量・リサイクルの推進、分別の徹底【シート番号4 総合評価：△】

生活ごみの減量・リサイクル推進については、一定の効果が認められたが、プラスチック製容器包装等については家庭ごみへの混入率が増加した。

廃食用油や小型電化製品等の資源物として新たに回収品目に加わったものもあることから、今後は資源物全般を対象に分別を働きかけていく必要がある。

エ 廃棄物系バイオマスなどのリサイクル手法の検討【シート番号5 総合評価：△】

生活系の廃棄物系バイオマスのリサイクルについては、検討が遅れている。

オ 不適正排出・不法投棄防止対策の徹底、グリーン購入の推進【シート番号7 総合評価：○】

不適正排出・不法投棄防止対策については、家庭ごみ集積所不適正排出の処理件数が震災前より多く、今後も地域と連携し、不適正排出・不法投棄をさせない環境づくりが必要である。グリーン購入の推進については、市民・事業者ともに順調に取り組みが進んでいる。

② 事業ごみの減量・リサイクル推進

ア(再掲) 廃棄物系バイオマスなどのリサイクル手法の検討【シート番号5 総合評価：△】

事業系の廃棄物系バイオマスについても、リサイクル等取り組みの後退が懸念される。

イ 事業ごみの減量・リサイクルの推進、分別の徹底【シート番号6 総合評価：△】

事業ごみ量は、復興活動に伴う経済活動の活発化や事業所数の増加により、当初の見込みに反し増加している。特に事業系可燃ごみ、事業系粗大ごみの増加が大きい。事業ごみ全体の減量や食品リサイクル法に基づく取り組みの推進を更に進めるために、事業ごみ手数料の見直し等について、具体的に検討を進めていく必要がある。

ウ(再掲) 不適正排出・不法投棄防止対策の徹底、グリーン購入の推進【シート番号7 総合評価：○】

不適正排出・不法投棄防止対策の徹底については、今後も地域と連携し、不適正排出・不法投棄をさせない環境づくりが必要である。グリーン購入については、行動意識も高くなっており、順調に取り組みが進んでいる。

③ 適正処理体制の確立

ア ごみの適正処理体制の確立【シート番号8 総合評価：◎】

ごみの適正処理体制の構築については、ごみ量・ごみ質の将来予測を踏まえた処理体制等適正化を図っている。災害廃棄物などの適正処理体制の構築については、平成25年5月に「災害廃棄物対策実施要領」を改定した。また、本市の対応は「仙台方式」として評価されている。

3. 低炭素都市づくり【シート番号9 総合評価：△】

燃やすごみの量が増加していることから、目標の達成は困難な状況である。ごみ処理工程における温室効果ガスの測定方法等について、引き続き検討する必要がある。

4. 市民・事業者・市の連携や三者が一体化した施策の推進【シート番号10 総合評価：○】

実践につながりやすい広報・啓発事業の展開については、本市が作成する様々な啓発物について、わかりやすさや実践のしやすさに配慮した広報となっている。

地域課題の解決に向けた取り組みの推進や、施策・事業への反映については、今後もクリーン仙台推進員・クリーンメイト及び町内会等との連携をさらに密にし、地域の実態に応じた広報・啓発のあり方を検討していくことが必要である。

ごみ減量・リサイクル推進に係る人・組織づくりの推進については、集団資源回収量の減少やリサイクルプラザ等の施設利用者の減少といった課題が出てきており、回収量の増加や施設利用の活発化に向けた検討の必要がある。

5. 処理施設の整備計画【シート番号11 総合評価：○】

最新の人口、ごみ総量等を基に一般廃棄物の排出量見込みを推計し、これを基に施設のあり方の検討を行っている。稼働が長期化している施設の整備方法等について検討を進める必要がある。

6. 処理体制【シート番号12 総合評価：◎】

生活ごみ・事業ごみともに、基本計画に則し、十分に適正かつ効率的な収集運搬体制が構築されている。